⑩日本国特許庁(JP)

①実用新案出願公開

⑩ 公開実用新案公報(U)

昭63-74289

@Int_Cl_4	識別記号	庁内整理番号	每公開 昭和63年(1988)5月18日	
B 25 C 5/16 5/04 5/15		7712-3C 7712-3C 7712-3C	審査請求 未請求 (全2頁)	

図考案の名称

.:4

電動ホッチキスにおけるステープル送り装置

②実 顔 昭61-167510

纽出 頤 昭61(1986)10月31日

⑫考 案 者 黒 沢 光 照

東京都中央区日本橋箱崎町6番6号 マックス株式会社内

①出 願 人 マックス株式会社 東京都中央区日本橋箱崎町6番6号

四代 理 人 弁理士 瀬川 幹夫

砂実用新案登録請求の範囲

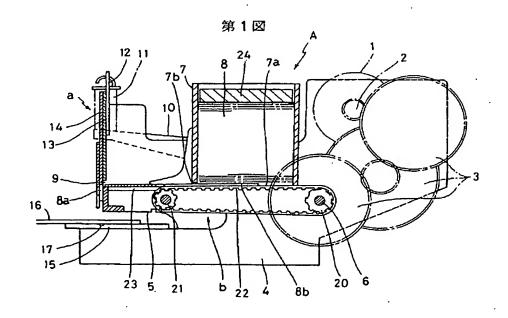
駆動ローラに限設した無端ベルトの一側に設けたステーブルカートリッジ内にシート状ステーブルを他側の成形・打込み部に供給するステーブル送り装置において、上記無端ベルトをシート状ステーブルと接する側の面を硬度の低い材質とし、駆動ローラに接する側の面を硬度の高い材質としたことを特徴とする電動ホッチキスにおけるステーブル送り装置。

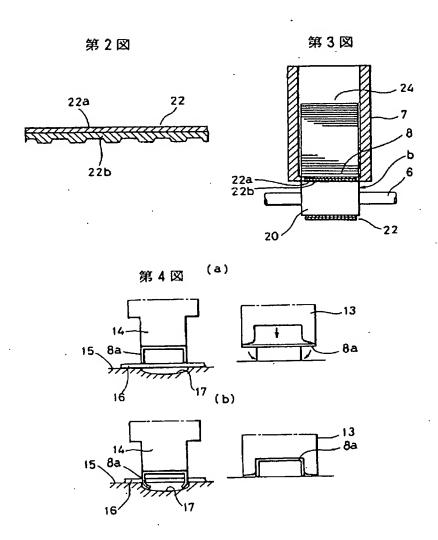
図面の簡単な説明

第1図は本考案に係るステーブル送り装置を含

む電動ホッチキスの概要説明図、第2図は無端ベルトの断面図、第3図はステーブルカートリッジと無端ベルトの正面からの位置関係説明図、第4図a, bは成形、打込み憩様説明図である。

符号A……電動ホッチキス、a……成形・打込み装置、b……ステーブル送り装置、1……電助モータ、4……機枠、7……ステーブルカートリッジ、8……シート状ステーブル、9……成形・打込み部、20……駆動ローラ、22……無端ベルト。





⑩日本国特許庁(JP)

①実用新案出願公開

⑫ 公開実用新案公報 (U)

昭63-74289

௵Int,Cl.⁴

識別記号

庁内整理番号

每公開 昭和63年(1988)5月18日

B 25 C 5/10 5/0

5/16 5/04 5/15

7712-3C 7712-3C

審査請求 未請求 (全 頁)

図考案の名称

電動ホツチキスにおけるステーブル送り装置

②実 願 昭61-167510

❷出 顧 昭61(1986)10月31日

⑫ 考案者 创出 願 人

黒 沢 光 照 マックス株式会社 東京都中央区日本橋箱崎町6番6号 マックス株式会社内

東京都中央区日本橋箱崎町6番6号

②代 理 人 弁理士 瀬川 幹夫

10 m

明 都 蜚

1. 考案の名称

電動ホッチキスにおけるステーブル送り装置

2. 実用新案登録請求の範囲

駆動ローラに張設した無端ベルトの一側に設けたステープルカートリッジ内にシート状ステープルを他側の成形・打込み部に供給するようといる。 デープル送り装置において、上記無端ベルトので変いが、上記無端でルルを接する側の面を硬度のである。 い材質とし、駆動ローラに接する側の面を硬度の高い材質としたことを特徴とする電動ホッチャスにおけるステープル送り装置。

3. 考案の詳細な説明

(産業上の利用分野)

本考案はシート状ステープルを無端ベルトによってステーブルカートリッジから成形・打込み部に恐々する電動ホッチキスにおけるステープル送り装置に関する。

(従来技術とその問題点)

従来この種のステーブル送り装置としては実

1215



開昭 6 1 - 3 1 6 8 0 号公報に示されたものなどが知られている。これは無端ベルトの下に磁石を配置し、その磁力によって無端ベルトに対してその上のシート状ステーブルを強く圧着させるものである。

しかしながら、実際に上記機構を採用するためにはマグネットとの摩耗を防ぐため無端ベルトとの間には金属保護板を取付ける必要があるほか、マグネット自体にもその変形を防ぐための補強支持板を取付けなければならないなど、部品点数が多くなるので、その分構造が複雑になりコストがアップする欠点があった。

(考案の技術的課題)

本考案は上記欠点を解決し、特に簡単な構造によってステーブルカートリッジから成形、打込み部にシール状ステーブルを供給することのできる電動ホッチキスにおけるステーブル送り装置を提供することをその技術的課題とする。

(課題を解決するための手段)



(考案の作用、効果)

上述のように、無端ベルトは二層構造で、 シート状ステープルに接触する面は硬度が低けいので、ステープルと無端ベルトとの摩擦力トとよって無端ベルトによって供助したがって、したを確実に成形・打込みの駆動にはみので、はないので、はないので、はないのではないではない。 は使性する面は硬度が高いので、低硬トを良好に駆動することができる。



このように、簡単な構造によってシート状ステープルを確実に送ることができるので、 従来 装置に比べてコストを大幅に低下させることができる。

(実施例)

以下、図面によって本考案の実施例について説明する。

なお、シート状ステーブル 8 は真直のステーブル針を接着剤によりシート状に連結してなる

kin Min

ものである。

成形・打込み装置aは上記駆動軸6に連結し た適宜構成の駆動手段(図示せず)により上下 駆動される駆動リンク10と、駆動リンク10 の前端にバネ材11を介して連結されたホルダ 12と、ホルダ12に保持された成形部材13 と打込み部材14とから構成され、駆動軸 6の 回転によって駆動リンク10を駆動させてホル ダ12に保持された成形部材13と打込み部材 1 4 とを下動させ、第 4 図 (a) (b) に示すよう に、後述の送り装置bによって送られたシート 状ステープル8の最前端のステープル8aをま ず成形部材13によってコの字形に成形した (同図右側)後、駆動リンク10の上動時にさ らに前方に送り、次の下動時に打込み部材14 によって機枠4の綴り台15上の紙16に向け て打込むものである(同図左側)。なお、17 はクリンチャ溝である。

機枠4に装着されたカートリッジ?内には シート状ステーブル8が多段に積層収納され、

その上には鍾24が載せられている。そして、シート状ステープル8はステープル送り装置 bにより最下段のシート状ステープル8 b から順に上記成形・打込み部9に供給される。

上記ステープル送り装置 b において、上記無端ベルト 2 2 は二層構造で、シート状ステープル 8 と接する側の層 2 2 a を硬度の低い材質と

し、駆動ローラ20、ローラ21に接する側の 居22bを硬度の高い材質として形成されてい る。

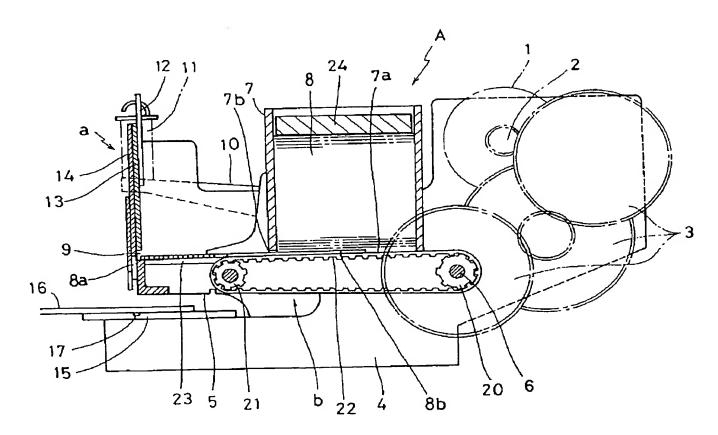
このように、無端ベルト22のシート状ステーブル8に接触する面は硬度が低いのではアーブル8と無端ベルト22との摩擦力はかかかって、大き、したがって無端ベルト22におかって、対したができる。また、無端は、からによるできる。 (の) 取り 高いので、低硬度による伸び、駆り は できる。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本考案に係るステーブル送り装置を含む電動ホッチキスの概要説明図、第2図は無端ベルトの断面図、第3図はステーブルカートリッジと無端ベルトの正面からの位置関係説明図、第4図(a)(b)は成形、打込み態様説明図である。

符号 A … 電動ホッチキス、 a … 成形・打込み装置、 b … ステーブル送り装置、 1 … 電動モータ、 4 … 機枠、 7 … ステーブルカートリッジ、 8 … シート状ステーブル、 9 … 成形・打込み部、 2 0 … 駆動ローラ、 2 2 … 無端ベルト実用新案登録出願人 マックス 株式 会社代理人 弁理士 衛 川 幹 夫

第 1 図



1223

. . .

